

# 平成30年度 川崎市総合教育センターの研究の推進

川崎市総合教育センター

## 1 今日の課題と川崎市総合教育センターの役割

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、社会が激しく変化する今日、「生きる力」の育成がより一層求められている。平成28年12月に中央教育審議会より「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」として答申が示された（以下「答申」と示す）。この「答申」には、「学校を変化する社会の中に位置付け、学校教育の中核となる教育課程について、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしなが、社会との連携・協働によりその実現を図っていくという『社会に開かれた教育課程』を目指すべき理念として位置付ける」と示されている。「資質・能力」については、「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」の「三つの柱」で整理されている。

この「答申」を受け、平成29年3月には小学校・中学校の新学習指導要領、4月には特別支援学校小学部・中学部の新学習指導要領、平成30年3月には高等学校の新学習指導要領が公示された。新学習指導要領では、「答申」で示された「社会に開かれた教育課程」の実現が重要になると示されるとともに、各学校においては「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていく」という「カリキュラム・マネジメント」に努めるものと示されている。そして各教科等の指導において、「各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習の過程を重視する」等の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

このような中、本市においては、平成27年度から第2次川崎市教育振興基本計画である「かわさき教育プラン」をスタートさせた。平成27年度から29年度を第1期実施期間とし、平成30年度から平成33年度は第2期実施計画期間としている。今年度は第2期実施計画のスタートに当たる。「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」ことを基本理念とし、「変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと」「個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと」を基本目標として定め、「自主・自立」「共生・協働」の2つのキーワードを示している。第2期実施計画の策定にあたっては、これまで本市の教育が積み重ねてきた成果を継承し、さらに発展させながら、多様な主体と連携・協働して、計画的に取組を進めていくことが重要であるとしている。

その中で川崎市総合教育センターは、我が国の教育の動向を見据え、かわさき教育プランの目標の実現を目指しながら、各学校の教育活動の充実に関する支援、教職員の資質や指導力の向上等に向け

た取組等を担っている。

## 2 川崎市総合教育センターの研究について

当センターでは昭和61年の設立以来、時代とともに変化し多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的として研究を行っている。現在は、次に示すような態様で研究を進めている。

- ・各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした、長期研究員と研究員による研究、指導主事と研究員による研究及びカウンセラー研究員による実践研究
- ・各教育研究所連盟等との共同研究
- ・教育活動及び児童生徒の実態に係る指導主事による調査・基礎研究
- ・様々な教育課題に係る施策研究

## 3 平成30年度の研究主題について

### (1) 平成25年度から平成29年度の研究について

平成25年度から平成27年度の3年間、研究総括主題を「川崎の未来を創造する子どもの育成」とした。これは、教育基本法の前文において「豊かな創造性の育成や未来を切り拓く教育の確立」がうたわれていることや、かわさき教育プランにおいて「川崎に育つ子どもたちが将来の夢や目標を持って学習や活動に取り組み、川崎市に対する誇りと愛着を持てるようにすること」が述べられていることに基づく。また授業づくりを中心とする研究を推進するために、平成25年度、26年度の実践研究主題を「社会を生き抜く力を育てる授業づくり」とした。平成27年度は授業づくりの視点から教育課程全体に視点を広げ、実践研究主題を「社会を生き抜く資質・能力を育てる指導の在り方」とした。

平成28年度については、中央教育審議会の「論点整理」や「審議のまとめ」等の学習指導要領等の改訂の動向、かわさき教育プラン等を受け、それまで「研究総括主題」「実践研究主題」と二つ掲げていた研究主題を「実践研究主題」に一本化し、「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」と設定した。平成29年度はこの実践研究主題を引き継ぎ、長期研究員と研究員による研究を5つ、指導主事と研究員による研究を8つ、指導主事による調査・基礎研究を4つ、及びカウンセラー研究員による研究を1つ、計18の研究を行った。

### (2) 平成30年度の研究に求められるもの

これまで、当センターでは各種の研究・研修を行うとともに、各学校においても真摯な取組が行われてきた。また、平成27年度からは、かわさき教育プランの基本政策Iで示されている「キャリア在り方生き方教育」の取組等も行われている。それらの成果は、全国学力・学習状況調査や川崎市学習状況調査等の分析等から明らかになっているように、本市の子どもたちの学習状況等の改善につながっていると考えられる。

例えば、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の平成21年と平成29年の数値を比較する。「自分には良いところがあると思う」という質問について、小学校6年生では、平成21年度が70.5%だが、平成29年度には79.9%となっている。また中学校3年生では、平成21年度では55.9%だが、平成29年度には70.4%となっている。また「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」という質問について、小学校6年生では、平成21年度が69.5%だが、平成29年度には78.8%となっている。また中学校3年生では、平成21年度では56.9%だが、平成29年度には71.7%となっている。これらの数値の上昇については、キャリア在り方生き方教育の三つの視点の内の一つである「自分をつくる」

で示されている「自立の主体である自分自身に対して自信をもち、自己を高める」という点をはじめとした、様々な取組での成果が徐々に表れていると考えられる。また、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う」という質問について、小学校6年生では、平成21年度が59.9%だが、平成29年度には47.4%となっている。また中学校3年生では、平成21年度では71.7%だが、平成29年度には57.7%となっている。言語活動の充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組の成果が表れていると考えられる。また、川崎市学習状況調査の「生活や学習についてのアンケート」からは、小学校・中学校共に各教科等について「すきだ」「わかる」の数値が平成26年度より平成29年度にかけて上昇していることがわかる。日々の着実な取組がこれらの成果として表れていると考えられる。

一方、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の「住んでいる地域の行事に参加している」という質問については小学校中学校共に、全国平均を大きく下回っている。また、川崎市学習状況調査の「生活や学習についてのアンケート」の「勉強する一番の理由は何ですか。」という質問については、中学校2年生の回答は、「将来の仕事に役に立つから」「受験に役に立つから」の数値が高く、「わかると楽しいから」「生活するのに役に立つから」の数値は高くはない。これは各教科等を「学ぶ意義」を実感しているか、そして「その教科ならではの学ぶ楽しさ」を味わっているか、という点で課題があることを示していると考えられる。

かわさき教育プラン第2期実施計画のスタートの年である平成30年度は、小中学校の新学習指導要領改訂への移行期間に入るとともに、高等学校新学習指導要領の周知期間に入る。このような年において、かわさき教育プランに基づいた教育を展開していく上で、これまでの取組を踏まえつつ、児童・生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは大変重要になる。そして「育成を目指す資質・能力」は何かを教職員がより明確に自覚し、その育成に向けた取組を継続していく必要がある。これらのことを踏まえ、各学校のこれからの取組の範を示す意味でも、川崎市総合教育センターの研究では、研究主題で「これからの社会を担う子どもたちに必要な資質・能力を育成する」ことを示し、各研究において「育成を目指す資質・能力」を明確にしながら研究に取り組むという体制を作る必要がある。

### (3) 平成30年度の研究主題について

平成28年度に実践研究主題を「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」とし、各研究における「育成を目指す資質・能力」を明らかにして研究に取り組んだ。これは、当センターの近年の研究主題に「未来の創造」「生きる力の育成」「社会を生き抜く資質・能力」といった言葉が含まれていることと、学習指導要領改訂を踏まえて設定したものである。平成29年度も同主題に基づき研究を行ってきた。平成30年度においても、これまでの成果と課題を踏まえつつ、各種調査結果等を生かして、子どもたちが自らのキャリア形成と「学ぶ意義」を関連付け、変化の激しい社会を生き抜く資質・能力を身に付けられるようにするために、平成29年度に引き続き、実践研究主題を以下のようにする。

#### 実践研究主題

**未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成**

# 川崎市総合教育センター 平成30年度研究体系図

教育基本法 学校教育法  
中央教育審議会 答申  
小・中・特別支援学校新学習指導要領  
高等学校新学習指導要領  
「育成を目指す資質・能力」の明確化

かわさき教育プラン  
基本理念  
夢や希望を抱いて  
生きがいのある人生を送るための礎を築く  
基本目標キーワード  
「自主・自立」「共生・協働」

## 川崎市総合教育センターの研究

### 実践研究

平成30年度 実践研究主題

#### 未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成

- 各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究
- 各教科等の教育指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究
- ◎長期研究員と研究員による研究（6）
  - 道徳：「考え、議論する道徳」を目指した授業と評価の研究
  - 外国語教育：中学校英語への円滑な接続をめざした文字指導の工夫
  - 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導：数量関係を正しく捉えるための問題把握の工夫
  - 主体的・対話的で深い学び：「深い学び」の視点からの授業改善に関する考察
  - 情報教育：小・中学校におけるプログラミング教育の研究
  - 特別支援教育：個と集団のつながりを意識した自立活動をめざして
- ◎指導主事と研究員による研究（5）
  - 音楽：音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立ての研究
  - 体育・保健体育：資質・能力を育む保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の学習
  - 健康教育：「しなやかな心」を育む健康教育
  - 高校教育：統合的な言語活動を通したコミュニケーション能力の育成
  - 学校教育相談：児童生徒同士のつながりを育む教育相談的な関わり
- ◎カウンセラー研究員による研究：教育相談を生かした生徒指導の在り方
- 市内学校との共同研究

### 共同研究

- 各研究所等との共同研究
- ◎指定都市教育研究所連盟
- ◎神奈川県教育研究所連盟
  - 研究大会での研究報告
- ◎関東地区教育研究所連盟
- ◎全国教育研究所連盟
- ◎都道府県指定都市教育センター所長協議会

### 施策研究

- 教育施策等に係る研究
- ◎習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
- ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

### 調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- ◎各センター指導主事研究
  - カリキュラムセンター
    - ・教員の資質・能力の育成に資する  
研修の見直し
  - 情報・視聴覚センター
    - ・情報活用能力育成のための  
モデルカリキュラムの作成に係る研究
  - 教育相談センター
    - ・児童生徒どうしのつながりはぐくむ  
教育相談的ななかかわり
  - 特別支援教育センター
    - ・特別支援教育体制充実事業調査基礎研究